



第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会
モーニングセミナー6 (MS-6)

爪白癬の完全治癒を 目指して 2021

～私ならこう治療する～

日時

2021年11月14日(日)
8:00～9:00

会場

京王プラザホテル
第7会場(4F「扇」)
東京都新宿区西新宿2-2-1

本セミナーはライブ配信も実施します。

詳細は「第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会ホームページ(<https://jdatokyo85.jp>)」よりご確認ください。

座長

原田 和俊 先生 (東京医科大学 皮膚科学分野 主任教授)

講演

講演1

爪白癬の形態学

山元 修 先生 (鳥取大学医学部 感覚運動医学講座
皮膚科学分野 教授)

講演2

爪白癬の正しい診断と治療
—完全治癒を目指して—

石崎 純子 先生 (東京女子医科大学東医療センター
皮膚科 准教授)

共催: 第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会 / 佐藤製薬株式会社 / エーガイ株式会社



爪白癬の完全治癒を目指して 2021 ～私ならこう治療する～

講演 1

爪白癬の形態学

山元 修 先生 (鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 皮膚科学分野 教授)

皮膚科学は形態学を基盤として発展してきました。形態学には、肉眼形態学(臨床像)はもちろん、直接鏡検、病理組織像、細胞診、塗抹標本検査、はては培養所見(真菌についてはコロニーの肉眼所見やスライドカルチャー)まで含まれます。爪白癬の診療についても、その例に漏れません。爪白癬を理解するには、まずしっかりとした形態学的知識が必要です。本講演では、爪白癬に関するいく

つかの形態学的な知識をしゃべりたいと思います。また、本セミナーの総合テーマにありますように、これまで爪白癬の完全治癒を目指すべく、様々な内服・外用薬が開発されてきましたが、最新の内服治療薬として登場したホスラブコナゾールの治療前後の、白癬菌の超微形態学的変化について、私の研究内容を紹介したいと思います。

講演 2

爪白癬の正しい診断と治療 —完全治癒を目指して—

石崎 純子 先生 (東京女子医科大学東医療センター 皮膚科 准教授)

本邦の爪白癬の治療は、大きく4つの時代に分けられる。即ち、①グリセオフルビン内服しかなかった時代、②イトラコナゾールとテルビナフィンの2つの内服薬が登場した1990年代以降、③エフィナコナゾールとルリコナゾールの2つの爪専用外用液が発売された2010年代半ば、そして、④ホスラブコナゾール内服薬を使用できるようになった直近の約3年間である。現在、外用2種、内服3種が保険適用であり、皮膚真菌症診療ガイドラインでは、完全治癒率を考慮して、外用は推奨度B、内服はAとされた。ホスラブコナゾール(ネイリン®)は、従来の内

服薬では併用や重篤な副作用から使用が躊躇われた症例にも比較的投与しやすく、投与期間、用法の点からもメリットが期待できる。超高齢社会を迎えた本邦において、爪白癬を発端として著明な爪甲肥厚および変形をきたした高齢者にしばしば遭遇する。このようになってしまうと、本人はもちろん、家族や介護者でも爪切りが難しく、また二次感染のリスクも高まる。歩行にも支障をきたしADLの低下に繋がる。爪白癬を正しく診断し、的確に治療することは皮膚科医に求められるミッションであり、今こそ早期治療による完全治癒を目指すことが求められる。